

史 談

2025 (R 7) 5. 15

■令和7年度史談会総会を開催します

田起こしをするトラクターを見かけるようになり、農業や家庭菜園が忙しくなる季節になりました。

さて、本年度の総会を下記のように開催いたします。今回から総会と講演の順番を入れ替え、待ち時間なく進行できるようにいたします。講演は鶴岡市の田口比呂貴さんにお話しいただき、白鷹の川・漁業を考えるきっかけにしたいと思います。懇親会もぜひご参加ください。

記

期日 令和7年6月21日(土)

場所 十王地区コミュニティセンター

時間 午後1時30分から

内容

1 講演会 1時30分～

講師 田口比呂貴氏(庄内民俗学会会員)

「大鳥の魚類調査-川と魚の変化とくらし-」

2 総 会 3時30分～

3 懇親会 4時15分～

参加料 会 員：無料(懇親会は1,000円)
非会員：500円(懇親会は1,500円)

■殿入ザクラのお猪口

大内紀子

畔藤の殿入ザクラは、文政12年(1892)、米沢藩主の上杉斉定が領内巡覧の際に立ち寄って花を觀賞したと伝わることから「殿入ザクラ」と呼ばれるようになりました。昭和初年頃に公園として整備され、茶店が並ぶなど近隣からも花見客が訪れました。その様子は古い絵はがきで確認できます。



▲ 殿入ザクラ 絵はがき(『思い出写真館』より)

公園は昭和初期頃に整備されたと言われていますが、それを裏付ける御猪口が見つかりました。

お猪口銘文

縁 「昭和2年」

内側 「殿之入遊園御上覧之桜／奥山家」

◀ 殿入ザクラ
お猪口

昭和2年(1927)、当地の豪農奥山源内によって公園が整備され、お祝いのお猪口が作られたのでしょう。現在、奥山宅は改修されて「NIPPONIA 白鷹 源内邸」というゲストハウスになっています。この改修時に不要な道具類を自由に持って行って良いという機会があり、お猪口をもらってきました。当時の人はこのお猪口で花見酒を楽しんだことでしょう。

ちなみに高橋源内(奥山源内の先祖)は、文政元年(1881)、畔藤村の馬の丞および越田(古志田)川原(最上川沿いの土地)の藪地を開墾する工事監督を藩から銘じられ、見事完成させました(『東根村郷土史』)。斉定は文政

12 年の巡覧時にこの開墾田を視察した後、浅立村の釈迦院で昼食を摂り、源内から 48 年前のモミを精米した米を献上され、褒賞として酒を下賜しました。

伝承ではこの時に桜を觀賞したとありますが、8 月 24 日と花の時期は過ぎており、近くを通るものの見学した記録はないようです。ただし、源内に関する記述があり、源内家にとっては重要な年だったことでしょう。（平成版『長井市史』2 巻、『長井市史資料』7 号「下長井巡覧預遊記」）。

■「丁寧な暮らし」ということ

守谷英一

「あゆ一む」学芸員の吉川さんに「丁寧な暮らし」ということばがあることを教えてもらった。自分の「ライフスタイル（直訳の「生き方」とはすこし意味合いが違うようだ）」に興味を持っている人たちに広まっていることばだそう。興味深かったので、早速ネットで調べてみた。

あるホームページには「丁寧な暮らしとは、普段の生活で行う何気ないことにも時間と手間をかけて、生活に向き合う暮らし方のこと」（<https://rensa.jp.net/life0313>）と記してあった。

また、具体的なこととしては、「料理にこだわる」「ものの定位置を決める」「香りものを取り入れる」などと並んで「電子機器から離れる」も並んでいました。

他の所には「ものを長持ちさせる」「自然と調和した生活をする」や「土鍋で御飯を炊く」、「ティータイムを作る」「周囲に優しくする」「健康を意識する」などもあります。

ふと考えると、私たちの生活の中にも「丁寧な暮らし」にあてはまるものがありそうです。例えば、家庭菜園で作った野菜を食べること、そしてそれをお裾分けすることなど。また、仕事の合間に「一服の時間」を設けること、昼寝をすることも「丁寧な暮らし」に入れることができそうに思います。

山菜の季節です。このところ我が家の食卓にもコゴミやコシアブラが並んでいました。また、

庭の片隅にあるウドの葉の天ぷらやミツバの味噌汁も定番になっています。テレビで見る京都の奥座敷の高級料理旅館の食卓にも少し似ています。

「テレビもね、ラジオもね、オラこんな村いやだ」という歌が流行したことがあります。それからずいぶん経って、その歌を歌った歌手もおじいさんになりました。しかし、程度の差こそあれ、この白鷹町は比較すると都会にあるものが「ない」状態にあります。だから、やっぱり「オラこんな村いやだ」と思うこともあります。「地方と中央の格差」は相変わらず存在していると思われます。

そのことを少し前向きに考えて見ると、一方で、都会にあるものがないことで「丁寧な暮らし」の要素があふれているようにも思います。

地方の課題は多くありますし、その解決方法はなかなか見つからず、先行きに不安を感じるのも当然ですが、逆に地方の優位性に目を向けてみることも必要なことではないかと思うのです。

私たちの「暮らし」のなかに、「この土地だからできること」が結構ありそうに思います。そのことを掘り起こして楽しんでみませんか。そういう意味で「この土地での暮らし」を考えて見たいと私は思っています。

■さまざまな情報

3 月 1 日(土)に白鷹郷土大学と共催で白鷹郷土大学「公開勉強会」を開催しました。その時の講師安藤竜二さんの著作『ハチ暮らし入門』（農文協刊）を「あゆ一む」で販売しています。1,800 円＋税です。どうぞお買い求めください。

令和 5 年総会で講演をしてくださった加藤和徳さんの著作物を「あゆみしる」で販売しています。また「あゆみしる」にないものは置賜民俗学会で頒布していますので守谷へお申し込みください。

奥村幸雄先生の著作物を「あゆみしる」で販売しています。在庫がなくなったものもありますので早めにお求めください。

以上、販売関係の情報です。会員以外の方にもお知らせください。

守谷